

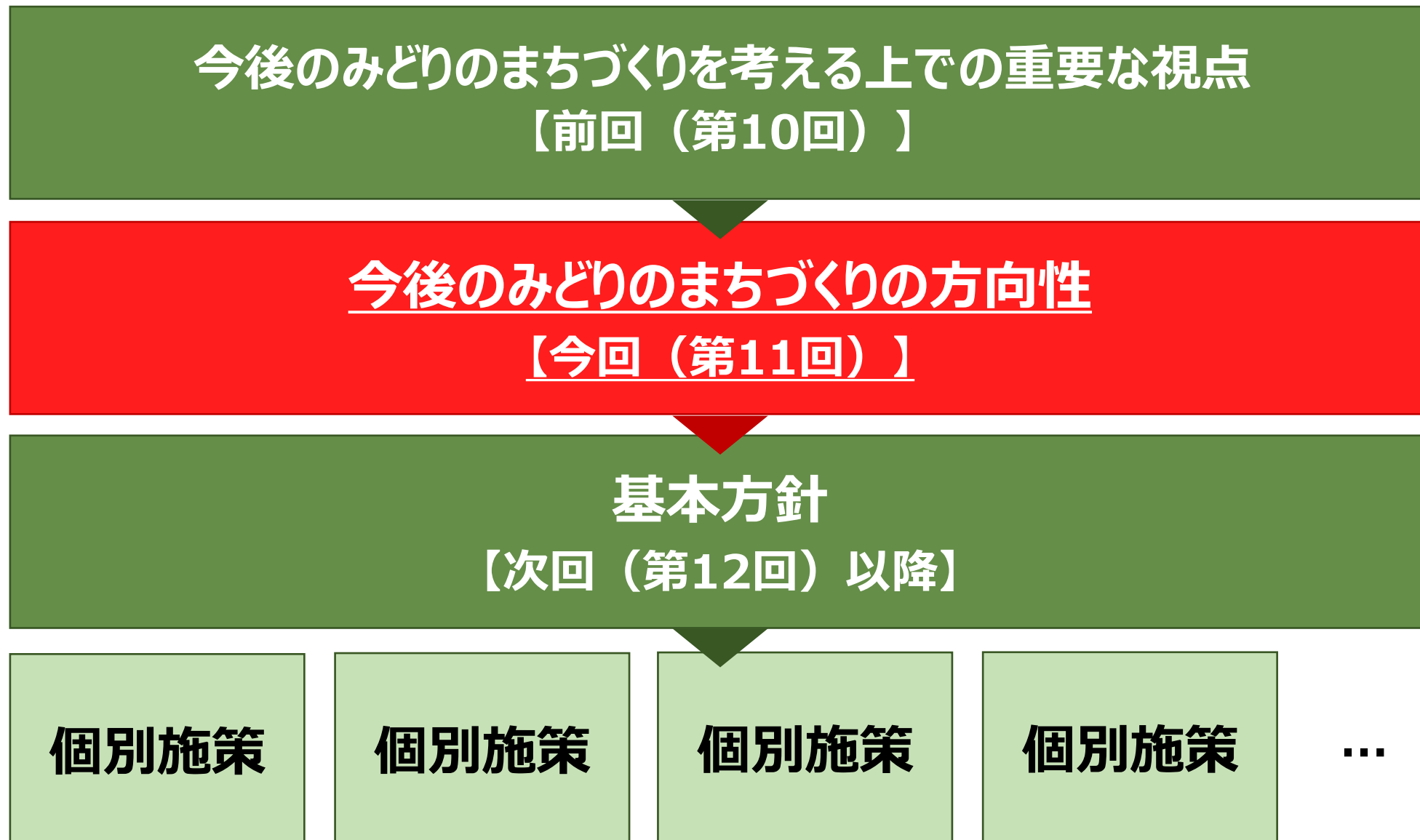
緑の基本計画〈2026〉の策定について 【今後のみどりのまちづくりの方向性】

1. 本日の論点
2. 前回審議会を踏まえた対応
3. 今後のみどりのまちづくりの方向性（素案）

1. 本日の論点

- 「今後のみどりのまちづくりを考える上での重要な視点」に関する前回（第10回）審議会での議論も踏まえ、今回（第11回）は「**今後のみどりのまちづくりの方向性**」について議論を行う
- 事務局で作成した「今後のみどりのまちづくりの方向性（素案）」について、過不足な点が無いかなどの観点から、ご意見を頂戴したい

（参考）次期計画の検討アプローチ（前回（第10回）審議会資料より）



2. 前回審議会を踏まえた対応

前回審議会でのご意見と対応方針

主なご意見		対応方針
① 「重要な視点」への反映・修正が必要なご意見		
みどりによる感染症への対応 （吉積委員）	・ <u>新型コロナウイルス感染症は都市災害の一つと捉えられる。</u> ・ 感染症の拡大に対してみどりのまちづくりが担う役割を<u>新たな視点として取り入れるべきである。</u>	「重要な視点」に関する記載の中で反映 （参考資料 1）
エネルギー問題への対応、脱炭素に関する記述 （吉積委員、加我会長）	・ みどりのまちづくりにおいて、直接エネルギー問題に対応することはない。<u>脱炭素、カーボンニュートラル等をタイトルとして入れた方がよいと思う。</u>	
重要な視点に関するキーワードの整理 （赤澤委員）	・ <u>キーワードの意味の重複する部分があるため、修正が必要である。</u>（「ウェルビーイング」と「心身の健康」など）	
重要な視点に関する表現 （玉川委員、加我会長）	・ 「エリアマネジメントとの連携」と表現しているが、「支援」と表現したほうが実態に即している。 ・ 表現により、<u>大阪市が主体の計画なのか、その他の主体も含めた計画なのかが変わるため、留意する必要がある。</u>	
介護の支援 （豊島委員）	・ 子育て支援の必要性があげられているが、<u>高齢者、障がい者等の介護の支援も入れるべきである。</u>	
② 今後のみどりのまちづくりの方向性検討に向けたご意見		
計画全体の考え方 （赤澤委員、加我会長）	・ それぞれの視点を並列に捉える考え方と、<u>対象空間別（街区公園、大規模公園等）の考え方の両方が必要である。</u>	参考資料 2 に整理 次回（第12回）以降の 審議会で深度化を図る

2. 前回審議会を踏まえた対応

前回審議会でのご意見と対応方針

主なご意見		対応方針
③ その他、個別施策等に関するご意見		
情報発信 (加我会長、豊島委員、西川委員)	・ 情報発信については市だけでなく、 <u>市民や団体からの情報発信も重要</u> である。	次回（第12回）以降の 審議会で議論
ブランドの確立 (西川委員、藤原委員、山本委員)	・ 世界観やキャッチコピー等、 <u>市民が積極的に関わりたくなるようなブランドを確立</u> していくとよい。	
担い手の育成 (西川委員)	・ 高齢のボランティアだけでなく、 <u>小・中・高校などの若い世代における担い手育成</u> にも取り組んでいくと良い。	
教育、農業での活用 (藤原委員)	・ <u>公園を教育、農業に活用</u> することが可能であれば、キーワードとして入れていけるとよい。	
戦略的な緑化 (加我会長)	・ 都市イメージの向上や景観への配慮の観点から、 <u>どこから戦略的に緑化していくのかが重要</u> 。	
エリアのコンセプト (上野委員)	・ 10地区のエリアのみどりが画一的になると面白みに欠けるため、 <u>各々のコンセプトを設けて進めていくことが重要</u> 。	
地域やエリアマネジメント団体との連携 (野上委員、加我会長)	・ 地域の方やエリアマネジメント団体が <u>活動しやすいような土台を作ることが重要</u> 。	

2. 前回審議会を踏まえた対応

今後のみどりのまちづくりを考える上での重要な視点（修正案）

- 今後はこの修正案をベースとして、緑の基本計画〈2026〉の内容検討を進めていく
- 検討の過程で再修正が必要となった場合は、適宜フィードバックしながら内容や表現を精査する

【現行計画】

- 大震災や都市型洪水など都市災害への対応
- 自然環境・生物多様性の保全
- 都市環境の改善やエネルギー問題への対応
- 都市の個性や魅力の向上
- まちづくり活動の活発化
- 都市計画公園・緑地の見直し
- みどりの創出・保全の展開と手法

【緑の基本計画〈2026〉における更新案】

- | | |
|----|-------------------------------|
| 継続 | 大震災や都市型洪水など都市防災への対応 |
| 継続 | 都市における自然環境・生物多様性の保全 |
| 継続 | 気候変動への対応や都市環境の改善 |
| 継続 | 都市の個性や魅力・風格の向上 |
| 継続 | 多様な主体によるまちづくりと連携した
まちの価値向上 |
| 削除 | ※ 項目から削除 |
| 継続 | みどりの創出・保全と情報の発信・共有 |
| 新規 | 一人ひとりのいきいきとした都市生活の実現 |

※ 下線：前回審議会のご意見等を踏まえた修正箇所

3. 今後のみどりのまちづくりの方向性（素案）

大阪市におけるこれまでのみどりのまちづくり

- 昭和39（1964）年の「**緑化百年宣言**」を契機として、**緑の量的拡充**に重点をおいた緑化等に取り組んできた
- 平成2（1990）年には**国際花と緑の博覧会（花博）**を開催するとともに、「花と緑のまちづくり宣言」を採択し、**市民や事業者とともにみどりの質の向上**を図る取組を推進してきた
- 平成25（2013）年に策定した現行の基本計画では、「**みどりの魅力あふれる大都市・大阪～だれもが住みたい・働きたい・訪れたいと思う“みどりの都市”へ～**」という基本理念を掲げ、「**実感できる緑**」をキーワードとした取組や指標を盛り込んでいる



近年のまちづくりの背景

- 都市化の進展に合わせて、みどりを含む都市基盤は一定程度整備され、都市は「**成熟**」のフェーズを迎えつつある
- ウェルビーイング（心・体・社会的な健康）への関心の高まりなどを背景に、「**都市における一人ひとりの生活**」がより重視されるようになった

⇒ 「重要な視点」として、「**一人ひとりのいきいきとした都市生活の実現**」を新たに追加



今後のみどりのまちづくり

新たな時代を迎える中、大阪市に**住む・働く・訪れる全ての人々**に焦点を当て、
「一人ひとりが輝くみどりのまちづくり」を推進する

3. 今後のみどりのまちづくりの方向性（素案）

今後のみどりのまちづくりの方向性（素案）

【方向性①】 **都市**を支える健全で快適な「みどり」を“育む”

みどりが持つ**多様な機能を最大限に発揮**できるよう、都市の中で求められる**多様なみどりを確保**しながら、公園や街路の個々の樹木を丁寧に育成するなど、**健全で快適なみどりを育む**



（例）御堂筋のイチヨウ並木

【方向性②】 **まち**の多様な「みどり」を“活かす”

まちの価値向上（暮らしの充実、地域の活性化など）が図られるよう、**産・官・学・民**がそれぞれの目的やニーズに応じて、まちの多様なみどりを**自由な発想で柔軟に活用**する



（例）みんなで公園活用事業（パークファン）

【方向性③】 **人**と人が「みどり」で“つながる”

一人ひとりの豊かな都市生活（住む、働く、訪れる）の実現に向け、みどりを“育む”・“活かす”取組をきっかけに、人々が集い、交流し、みどりを中心とした**コミュニティの醸成**につなげていく



（例）SNSを活用した相互の情報発信・交流

みどりへの親しみと誇りを感じながら
「一人ひとりが輝くみどりのまちづくり」を推進する

3. 今後のみどりのまちづくりの方向性（素案）

（参考） 3つの方向性のイメージ

「一人ひとりが輝くみどりのまちづくり」を推進

【方向性③】 **人**と人が「みどり」で“つながる”

育む・活かす取組をきっかけに…

【方向性②】 **まち**の多様な「みどり」を“活かす”

育んだ「みどり」を対象に…

【方向性①】 **都市**を支える健全で快適な「みどり」を“育む”

